

井戸端だより

第3号

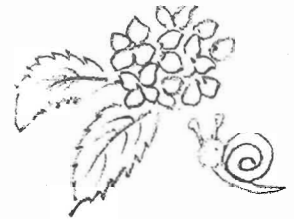
発行日 1993. 7. 21

発行 暮らしの学習会



水源地

めぐり



4月28日、上林取水口・下林取水口・柳原泉・三か村泉の4カ所を見学して回りました。小雨まじりの天候ではありましたが、水について詳しい松山市の武井さんも参加され9人での水源地めぐりでした。

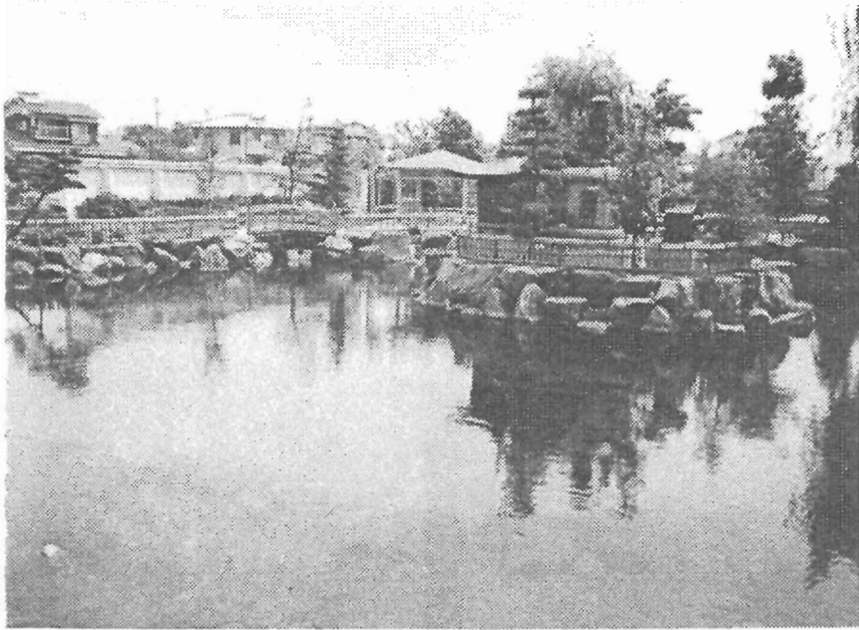
上林は場所の確認にとどまりましたが、泉ではそばまで行って水を見ることができました。季節的なものなのか、あまり水は多くはありませんでしたが、きれいな水でしか育たないと言われている水生生物を確認してほっとしました。

私が子供のころは、至る所このようなきれいな水で囲まれていたのを思い出し、この四半世紀間の環境の激しい変化を改めて感じさせられました。それと同時に、この水源地に流れこむ水について、その回りの安全確保に関する規制があるかどうかということが気になりました。またその近くでの心ない人のごみの不法投棄を見て胸が痛みました。

今、店頭には”銘水”がジュース程の価格で売られており、かなり人気があるように思います。これは、生命の維持に大切な水についての大きな関心の表れだと思います。

植林による山での保水、また、都会では地下水の減少に対して、雨水を地下に浸透させるような雨水樹の設置など、水の確保についていろいろと考えられているようです。良い水資源環境を保つために、土地開発などについて、自然にやさしい長期的計画が大切だと思いました。

(S)



杖ノ淵公園

V

ひよこたん池
公園



重信町内に点在する泉を、あちらこちらと見てまわっているうちに、このしんと澄みきった湧水に感激してしまいました。この泉をこのままずっと子供達に残したいねと話しました。整備という名のもとに、木を切りとられ、柔らかな土をコンクリートで押しつぶされてしまった公園を、私達はたくさん知っています。逆に、無関心すぎてごみの山になってしまった例もあります。具体的に何をすれば、泉を守る事になるのかはまだまだ分かりません。とりあえずは泉を整備した例として、杖ノ淵公園とひよこたん池を見学する事にしました。

7月12日、8名で、まず杖ノ淵公園へ。

建設費6億というだけあって、りっぱなものでした。舗装された広い駐車場や、休憩所子供の広場等があり、泉はもとの面積の約3倍に広げて、水底も60cm深く掘り下げたとの事で、ゆったりと整然と作られていました。ただそれまで、木々の生い茂ったひっそりと涼しそうな泉を見てきた私達には、この広さと明るさがちょっと意外に思えました。澄んだ水にしか繁殖しないといわれるていれぎを、さっそくさがしてみましたが、ほとんど姿を消していました。わずかに残ったものには黒い変な藻がからんでいました。どうしてこんな事になったのでしょうか。私達は素人なりに、いろいろ理由考えてみました。まず周囲の木を切った為に水面全部に日光があたるようになり、他の藻が繁殖しやすくなったのではないか、次に泉を広げた事で水の循環が悪くなったのではないか、周囲を舗装した為の温度変化等の影響は無いのだろうか等意見ができました。

池の底を見ると砂をしいたり石を積んだりしてあり、これはていれぎ保存の為の実験をしていると聞きましたので後日、松山市役所の担当の方に、お話を聞きに行きました。(これは1人で行ったのですが親切に対応してくれました。)それによると、(日光との関係ははっきりとは分かりませんが、確かに舟置場と橋の下にはこの黒い藻は発生していませんでした。水の温度に関しては、夏の方がむしろ良い、これはたぶん水面と水底の温度差がうまく水を循環させる作用をしているのだろう)という事でした。

次に伊予市のひよこたん池に行きました。ここも泉を広げて池にして、周囲を公園に整備していましたが、舗装をしてなくて土のままなのが、かえってほっとしたりしました。

(K)

ひよこたん池公園

愛媛新聞に、《湧水生かし公園作り》の大見出しで取り上げられた伊予郡松前町中川原の《ひよこたん池公園》。

記事及び写真からかってに心はずませ期待した、遠足気分の私にとっては、ちょうどいい戒めとなりました。

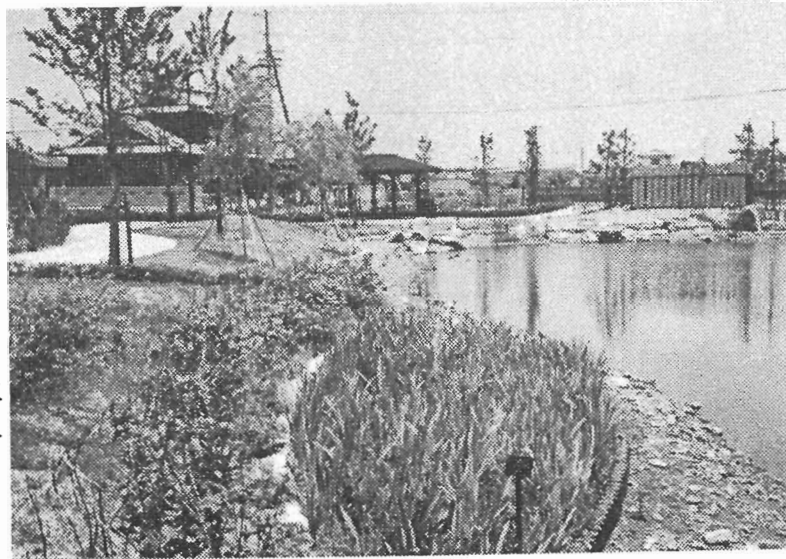
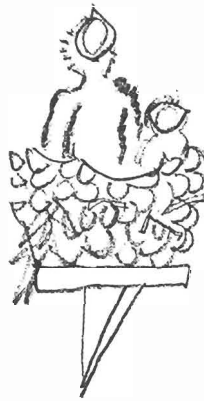
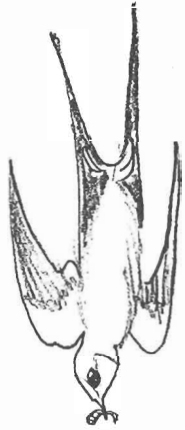
地図では分かりにくい細い農道を数百メートル、土手沿いに進めば完全に整備された杖ヶ淵公園とも違う、それでいてまわりの田畑の景色にうまく溶け込めていない公園を発見。記事によると、広さは約5200平方メートル、重信川の伏流水でできた東西に細長いひょうたん形の池があるとなっていますが、元々は水源が小さく、いったんポンプで水を汲み上げ無理に広げた池だということです。流れが無いため、水が濁りあげくの果てに鯉の餌まで浮いている始末。杖ヶ淵公園に比べて川底に手を加えていない点は、自然の状態が保たれていて安心できました。しかし、数株育成された（ていれぎ）が藻にまといつかれ、見るも無残なのはやはり悲しい光景でした。

サンサンと強い日差しが照りつけ、当初はどういう状態だったのだろうという疑問の声もあがりました。偶然にも、昼休みを利用したか、ちょうど池に放流された鯉に餌をやりに来ていた業者の方からお話をうかがう事ができました。公園を整備した町と住民、業者の三者の間で管理をめぐる話がついていない状態だそうです。それが、これからこの公園の環境をどう変えていくか、不安が残りました。

それにしても、池にかかった橋といい歩道といい、木に似せるくらいなら初めからコンクリートにせず本物の木を用いればいいものを。なんと風情の無いことでしょう。

この公園が、住民の方々にとって、親睦や散策の場として本当に生かされる日が来ることを願っています。

(5)



こんにちは 町長さん



出番です



5月25日、かねてから 私たち学習会のメンバーが楽しみにしていた「町長さんと話そう」会が実現し、午後1時より役場の会議室にて 少し興奮気味に始まりました。参加者は5名。それぞれの自己紹介の後、日ごろ思っている事や私達「くらしの学習会」のこれまでの活動の事などを聞いて頂きました。町長はその一つ一つに頷かれ熱心に聞いて下さっているご様子。メンバーの一人の、「町長さん、《町長》っていう お仕事、楽しいでしょう？」という一言に、一同爆笑。会は、一気に和やかになりました。以下、主な内容をまとめてみました。

★ 生活排水のこと

質 山の内 地区で、合併浄化槽を設置する場合、町から補助金が出ると聞きましたが、なぜ山の内地区だけですか。

答 町としては、公共下水道を作る計画があります。しかし、山の内地区については集落が離れており、別の方法を取らざるをえません。又、上林地区については、集落全体でまとめて浄化排水する方法を考えています。ただし、今すぐというわけにはいきません。10年かかるでしょ

う。と言うのは、これには終末処理場の建設場所の確保の問題があるからです。少なくとも、学校の体育館3つ分くらいの場所が必要です。私としては、処理場を地下に作りその上を公園にしてはどうかというような考えもあります。

★ 松くい虫防除について

質 松くい虫防除の薬剤散布は松山でも中止が決定し、川内でも一部中止になりましたが、重信でも中止してほしいのですが。

答 生態系のことを考えると中止するのが良いことは解っているのですが、これまでの経緯や関係者の要望もあり、簡単ではありません。

★ 町長から

- ◇ 公園の計画 皿ヶ峰、山ノ内、下林などに公園の計画があります。
- ◇ 町全体として、農作物にたいする農薬を減らしたいと考えています。
- ◇ 町政モニターの制度を作り、町民の声を吸い上げていきたいと考えています。
- ◇ ゴミ問題で困っています。町民の皆さんのアイデア、お知恵を是非聞かせてください。

(Y)

メーリケの詩④

森のはずれで

E・メーリケ
森孝明 訳

森のはずれの草に寝ころんで長い午後
郭公を聴いているのは気持ちいい。

谷間をこちよく揺すつてねいらせるように
嘆きの調べもやすらかさにみちている。

わたしは気分がいい 世間の茶番劇に
調子を合わすわずらしさも

ここまで追いかけては来ないだろうし、
自分に帰つてくつろげる。

詩人がどんなにいい加減に時間を浪費するか
少しでも思いをめぐらす敏感な人がいたら、
最後にはきつとわたしのことをもつとやらやむだろう。

なぜならソネットの緊密な花環が
まるでひとりでに手元で編まれていくのだから、
眼がはるか遠くで遊んでいるうちに。



十和村から



4月初め、十和村からの生活排水処理施設のことをテレビで見、早速資料を送っていただいた。そして、2ヶ月位して水質検査の結果が知りたくて電話で聞いてみる事にした。すると、こちらが聞くより早く処理水の検査結果はですねと、うれしそうに教えてくれた。

検査結果

- BOD (生物化学的酸素要求量、汚れの指標) ----- 1以下
- リン----- 0に近い
- チッソ----- 0に近い
- 浮遊物----- 1以下
- 合成洗剤----- なし

このように川の水よりきれいな処理水が流されているとの報告。川、水を浄化するのに杉、松の木炭を使用したところ、松の方がより良い。この木炭は、十和村の特産の1つにもなっており、間伐材を利用しているとのことであった。

行政にたずさわっている若い人が自信を持ち、活躍している様子が見えてくるような電話の声であった。それと同時に川の水よりきれいな処理水を流すことができるとは、驚きであった。

今、我が重信町でも重信川添いに工業団地が建設されつつある。願うことは、川の水よりきれいな水を自然に返して欲しいこと。また、生活排水に関しても早い時期に処理施設ができるようになってほしい。

もう1つの事は、この事を聞く前に間違って電話をした所が、農協。すぐに電話を置かず農業と林業の村だと聞いていたので、山への空中散布のことを聞いてみることにした。すると、落ち着いた年輩の人の声で、空中散布などはしておりませんよ。それは何故ですか と。いつもなら どうして空中散布をするのか 問うことが多いのに、今回は逆の立場で問うてみた。それはですね。その地区には家も在り、飲み水もありますから、そんなことしたらたいへんですよ。それに、川にもはいりこみますしね。と空中散布などもってのほかと言わんばかりであった。間違っかけて電話の向こうからの声に嬉しくなり、力づけられる思いがした。

(十和村---高知県と愛媛県の県境、四万十川の上流に位置する)

(M)

